

れるようになって。子育てというよりは一緒に遊んで楽しんでいる、自分も楽しませてもらうという感じになってきましたね。

## 子育てにはどんな風に 取り組まれたのでしょうか？

私が親になった1980年代って、少年犯罪の低年齢化が目立ってきた時代だったんです。なので、関連するノンフィクションなどをよく読んでたり、家にも学校にも地域にも居場所がなくて、自分が生きていく意味を見失った子どもが道を踏み外すことが多いんだな、と感じました。

自分の子どもに関してはそういう思いはさせたくないなと。両親があなたのことを愛している、あなたが生まれてきたことをとても喜んでいて、そういうことを必死に伝えて、一緒にいるんな楽しい思い出を作って、自分がこの世に存在している意味があるって、そういうことを実感してもらえればいいんじゃないかなと思います。

そこで自分ができていることは何かを考えて、とにかく、ずっと麻里を笑わせたらしめたりという工夫をしていました。幼稚園なり小学校に上がると、子どもは子どもなりに勉強や人間関係で大変な思いをするでしょう？でも家に帰ってきて、たとえば

お母さんが用意してくれたおいしいおやつやご飯を食べて、お父さんと遊んでげらげら笑っていると、自然にうれしい思いもリセットされるし、人生って楽しいんだなと思ってもらえるんじゃないかと。

反抗期はほとんどなかったのですが、大きくなって、意見がぶつかった時には、父親として頭ごなしに否定せずに、私はとにかく自分なりに一生懸命話を聞きました。なぜそう思うのか、なぜそうしたいのか、なぜ今じゃないといけないのかという点を2人で徹底的に考えたんです。もともと年上の遊び仲間という感じで接していましたし、そういう人間が親身になって一緒に真剣に考える。それで、今はそれをする段階ではないけれども、大人になったらしてもいいよってひとりの人間として認めたとでの結論を出せば、最終的には納得してくれる。もちろん、なにかあったらお父さんに相談しなさいという風に、妻がうまく誘導してくれていたというのもあるんですけどね。

そういう接し方を含めて、あなた

のことを大事に思っている、真剣に考えている、あなたのためなら命も惜しくないということ伝えるのは、とても大事だなと思います。それは、親がちゃんと真正面から伝えたいわけではないですね。「親の背中を見て学べ」ではなく。うちの場合は、小学校の三年生だったか、四年生だったかな、あの程度真剣な話も伝わるようになったかな、と思ったときに、そういう話をしました。

## お孫さんとお子さんとの 接し方は違いますか？

孫にはどうしても甘くなりますねえ(笑)。やはり自分の子どもと孫では責任のあり方が違うし、もつと云うちゃえば責任はないに等しいから。

麻里にはそれで叱られることもありませんし、「もうケツケツダンスやってもいいかなあ、まだ早いかなあ」などと許可を求めることもありますが(笑)、でも基本的には同じかな。孫の親とはまた違う世代の人間として、自分の子どもと同じように育つように接していきたいなと。

今は男性の育児参加、イクメンというんですか？ それがいろいろ議論されていて。でも、日本だと男性が初めて親になるのは三十代が多いかと思いますが、その年代は一般的に仕



事が忙し過ぎるので、なかなか難しい面もあると思いますね。

でも、今は家事も含めていろいろできなくても、できることからやればいいし、また時間の流れに沿って状況は変わってきますから、将来はまた今とは違った関わり方ができるようになるかもしれない。あるいは自分の子どもにはできなかったことでも、孫になら、仕事も一段落して時間もできて、やってあげられるかもしれない。

人間以外の生物のことや原始時代の人間のあり方なども考えての極論になりますが、私が思う、男性というか雄の役割って、家族と子孫のために働いて働いて黙って死んでいくことだったんです。そういった自分が思う自分自身の役割を果たしつつ、その上でさらに子どもや孫の育児に携わる喜びも感じられるなんて、なんて幸せなことなんだと思ったんです。皆さんも少し視点を変えて考えてみるといいんじゃないかなと思います。それから、私にとっての子育ては楽しかったし、そして今、孫と接している毎日でも楽しいし、充実しています。

